

Ⅲ 世帯員の健康状況

1 自覚症状の状況

病気やけが等で自覚症状のある者（有訴者）は人口千人当たり 312.4（この割合を「有訴者率」という。）となっている。

有訴者率（人口千対）を性別にみると、男 276.8、女 345.3 で女が高くなっている。

年齢階級別にみると、「10～19歳」の 176.4 が最も低く、年齢階級が高くなるにしたがって上昇し、「80歳以上」では 537.5 となっている。（表 13）

症状別にみると、男では「腰痛」での有訴者率が最も高く、次いで「肩こり」、「鼻がつまる・鼻汁が出る」、女では「肩こり」が最も高く、次いで「腰痛」、「手足の関節が痛む」となっている（図 24）。

表 13 性・年齢階級別にみた有訴者率（人口千対）

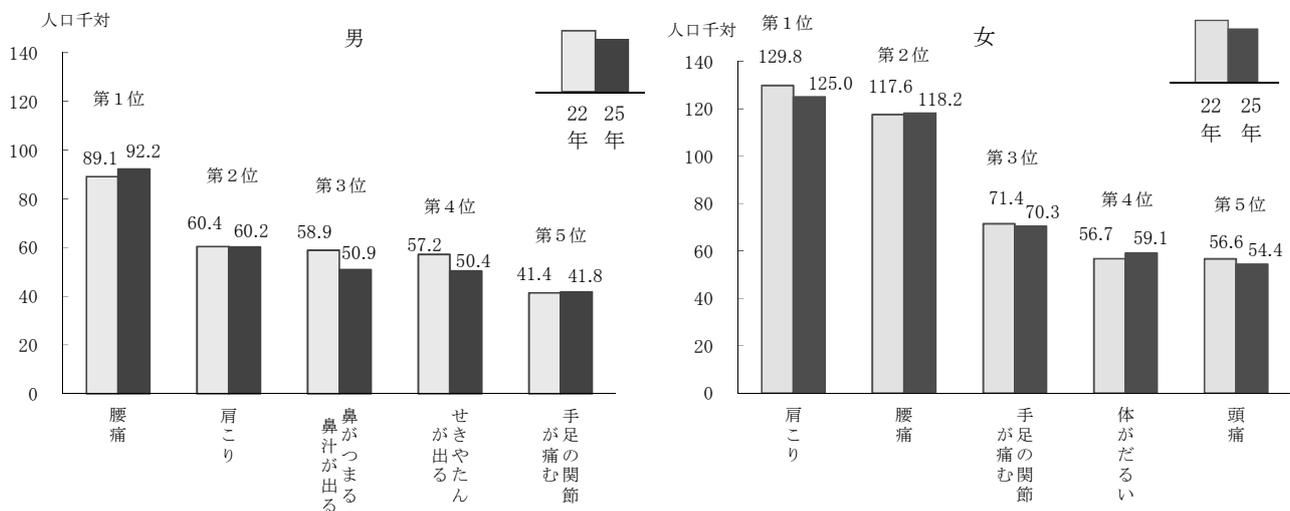
（単位：人口千対）

年齢階級	平成25年			平成22年		
	総数	男	女	総数	男	女
総数	312.4	276.8	345.3	322.2	286.8	355.1
9歳以下	196.5	204.7	187.9	248.1	252.8	243.2
10～19	176.4	175.2	177.8	203.4	207.3	199.3
20～29	213.2	168.7	257.6	221.9	178.5	264.7
30～39	258.7	214.4	301.4	272.4	225.7	317.1
40～49	281.1	234.3	325.7	292.1	246.0	336.5
50～59	319.5	271.0	365.8	321.3	275.9	364.8
60～69	363.0	338.5	385.5	381.6	350.9	410.1
70～79	474.8	448.0	497.4	484.3	454.9	509.1
80歳以上 （再掲）	537.5	528.1	542.9	525.1	518.4	528.9
65歳以上	466.1	439.9	486.6	471.1	443.7	492.5
75歳以上	525.6	506.1	538.8	517.5	500.0	529.0

注：1）有訴者には入院者は含まないが、分母となる世帯員数には入院者を含む。

2）「総数」には、年齢不詳を含む。

図 24 性別にみた有訴者率の上位 5 症状（複数回答）



注：有訴者には入院者は含まないが、分母となる世帯員には入院者を含む。

2 通院者の状況

傷病で通院している者（通院者）は人口千人当たり 378.3（この割合を「通院者率」という。）となっている。

通院者率（人口千対）を性別にみると、男 358.8、女 396.3 で女が高くなっている。

年齢階級別にみると、「10～19歳」の 133.0 が最も低く、年齢階級が高くなるにしたがって上昇し、「80歳以上」で 734.1 となっている。（表 14）

傷病別にみると、男では「高血圧症」での通院者率が最も高く、次いで「糖尿病」、「歯の病気」、女では「高血圧症」が最も高く、次いで「腰痛症」、「眼の病気」となっている（図 25）。

表 14 性・年齢階級別にみた通院者率（人口千対）

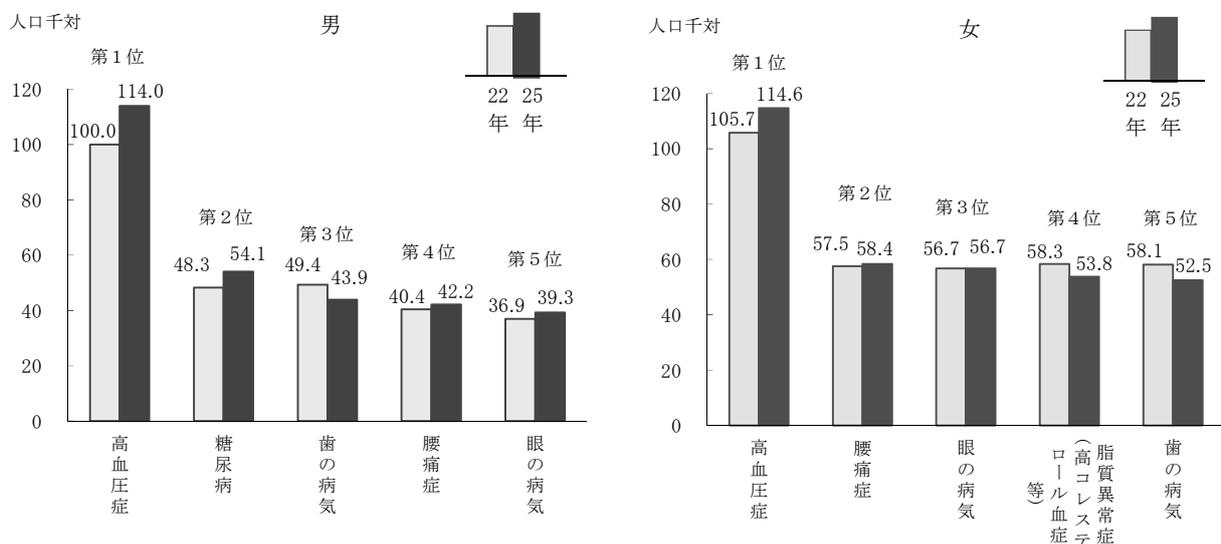
（単位：人口千対）

年齢階級	平成25年			平成22年		
	総数	男	女	総数	男	女
総数	378.3	358.8	396.3	370.0	348.1	390.4
9歳以下	163.9	178.6	148.4	194.3	208.0	180.3
10～19	133.0	138.9	126.9	150.7	156.4	144.8
20～29	150.4	123.4	177.2	153.3	123.6	182.5
30～39	204.1	178.4	228.9	203.7	172.6	233.4
40～49	272.7	258.9	285.8	274.8	260.6	288.5
50～59	418.8	408.5	428.5	409.5	394.8	423.6
60～69	576.6	574.1	578.9	569.2	559.5	578.3
70～79	707.5	702.8	711.5	707.6	691.6	721.2
80歳以上 （再掲）	734.1	733.3	734.5	710.0	714.9	707.1
65歳以上	690.6	685.2	694.9	679.4	667.9	688.3
75歳以上	735.0	732.9	736.4	721.9	717.6	724.7

注：1）通院者には入院者は含まないが、分母となる世帯人員数には入院者を含む。

2）「総数」には、年齢不詳を含む。

図 25 性別にみた通院者率の上位 5 傷病（複数回答）



注：通院者には入院者は含まないが、分母となる世帯人員には入院者を含む。

3 健康意識

6歳以上の者（入院者は除く。）について、健康意識の構成割合をみると、自分の健康を「よいと思っている」（「よい」と「まあよい」をあわせた者）は38.5%となっており、「ふつう」46.9%、「あまりよくない」11.5%、「よくない」1.9%となっている。

自分の健康を「よいと思っている」を性別にみると、男40.3%、女36.9%となっている。（表15、図26）

表15 性別にみた健康意識の構成割合（6歳以上）

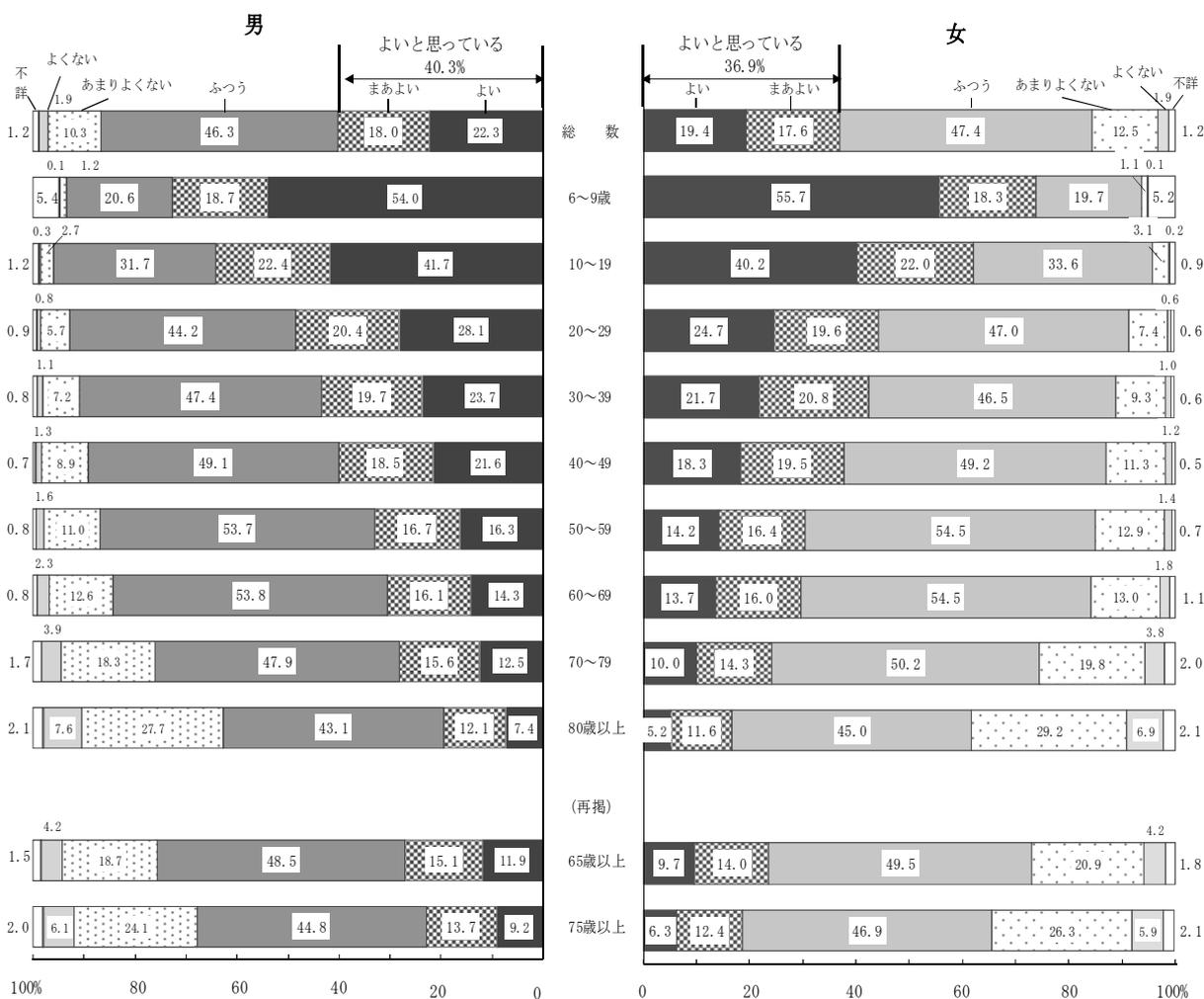
(単位：%) 平成25年

性	総数	よいと思っている		ふつう	あまりよくない	よくない	不詳
		よい	まあよい				
総数	100.0	38.5	20.8	17.8	46.9	11.5	1.9
男	100.0	40.3	22.3	18.0	46.3	10.3	1.9
女	100.0	36.9	19.4	17.6	47.4	12.5	1.9

注：入院者は含まない。

図26 性・年齢階級別にみた健康意識の構成割合（6歳以上）

平成25年



注：入院者は含まない。

4 悩みやストレスの状況

12歳以上の者（入院者は除く。）について、日常生活での悩みやストレスの有無をみると「ある」が48.1%、「ない」が50.6%となっている（図27）。

悩みやストレスがある者を性別にみると、男43.5%、女52.2%で女が高くなっており、年齢階級別にみると、男女ともに「40～49歳」が最も高くなっている（図28）。

図27 悩みやストレスの有無別構成割合
(12歳以上)

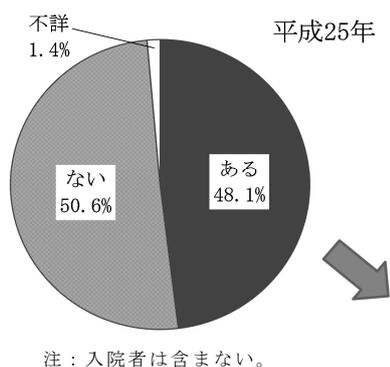
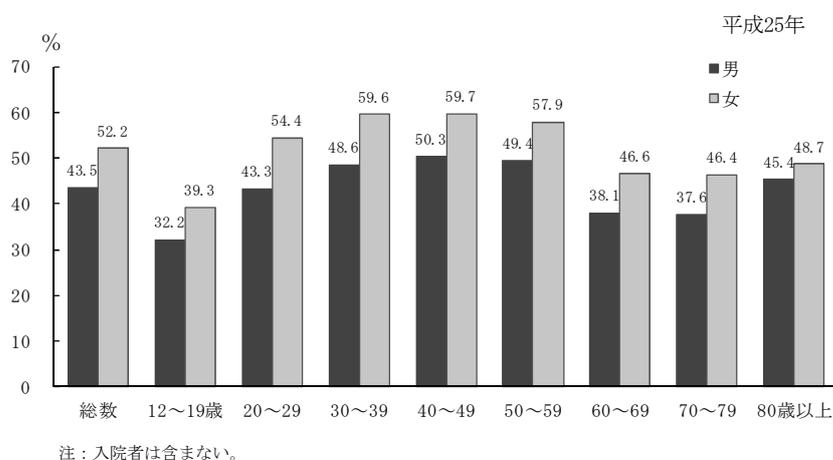


図28 性・年齢階級別にみた悩みやストレスがある者の割合(12歳以上)



5 こころの状態

12歳以上の者（入院者は除く。）について、過去1か月間のこころの状態を点数階級別（6つの質問について、5段階（0～4点）で点数化して合計したもの）にみると、「0～4点」が67.3%と最も多くなっており、年齢階級別に点数階級をみても全ての年齢階級で「0～4点」が最も多くなっている（図29、図30）。

図29 こころの状態(点数階級)別構成割合(12歳以上)

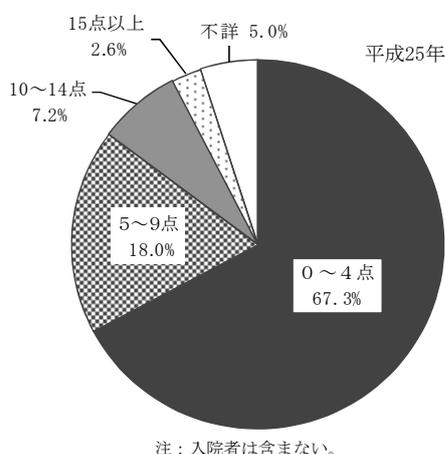
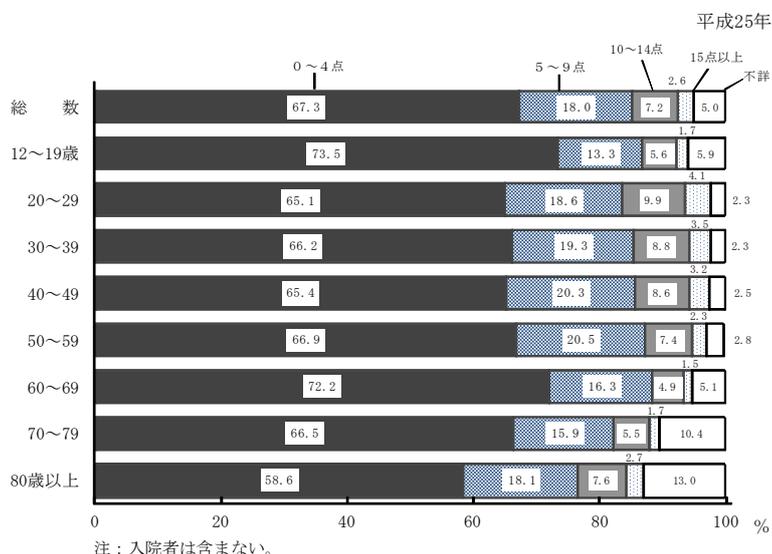


図30 年齢階級別にみたこころの状態(点数階級)の構成割合(12歳以上)



6 睡眠と休養充足度の状況

12歳以上の者（入院者は除く。）について、過去1か月間の1日の平均睡眠時間をみると、「6～7時間未満」が32.8%と最も多くなっている（表16）。

睡眠による休養充足度をみると、「まあまあとれている」が最も多く57.6%となっている（図31）。

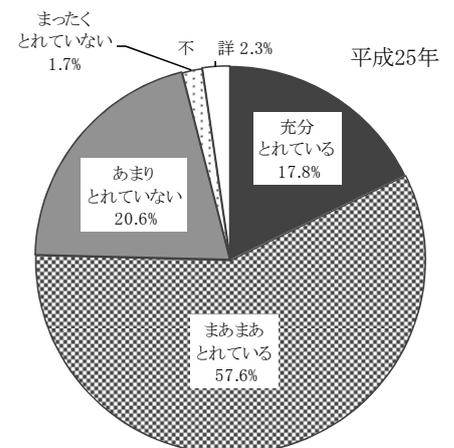
睡眠による休養充足度を平均睡眠時間別にみると、睡眠時間が長くなるに従って「充分とれている」が多くなっている（図32）。

表16 年齢階級別にみた平均睡眠時間の構成割合（12歳以上）

(単位：%)		平成25年							
年齢階級	総数	5時間未満	5～6時間未満	6～7時間未満	7～8時間未満	8～9時間未満	9時間以上	不詳	
総数	100.0	7.8	27.5	32.8	22.1	6.6	2.0	1.1	
12～19歳	100.0	3.8	20.6	33.2	28.1	8.7	1.4	4.2	
20～29	100.0	7.2	29.0	35.6	21.1	5.2	1.3	0.6	
30～39	100.0	8.5	29.9	35.2	20.5	4.4	0.9	0.6	
40～49	100.0	10.5	35.2	33.6	16.4	3.2	0.6	0.5	
50～59	100.0	9.4	33.9	34.4	17.7	3.4	0.6	0.6	
60～69	100.0	6.9	25.5	34.6	24.5	6.5	1.2	0.7	
70～79	100.0	7.5	21.9	29.2	26.5	10.4	3.2	1.3	
80歳以上 (再掲)	100.0	5.6	14.7	20.7	27.2	18.1	11.9	1.8	
65歳以上	100.0	6.8	20.8	28.5	26.4	11.5	4.9	1.2	
75歳以上	100.0	6.4	17.0	23.9	27.2	15.5	8.5	1.6	

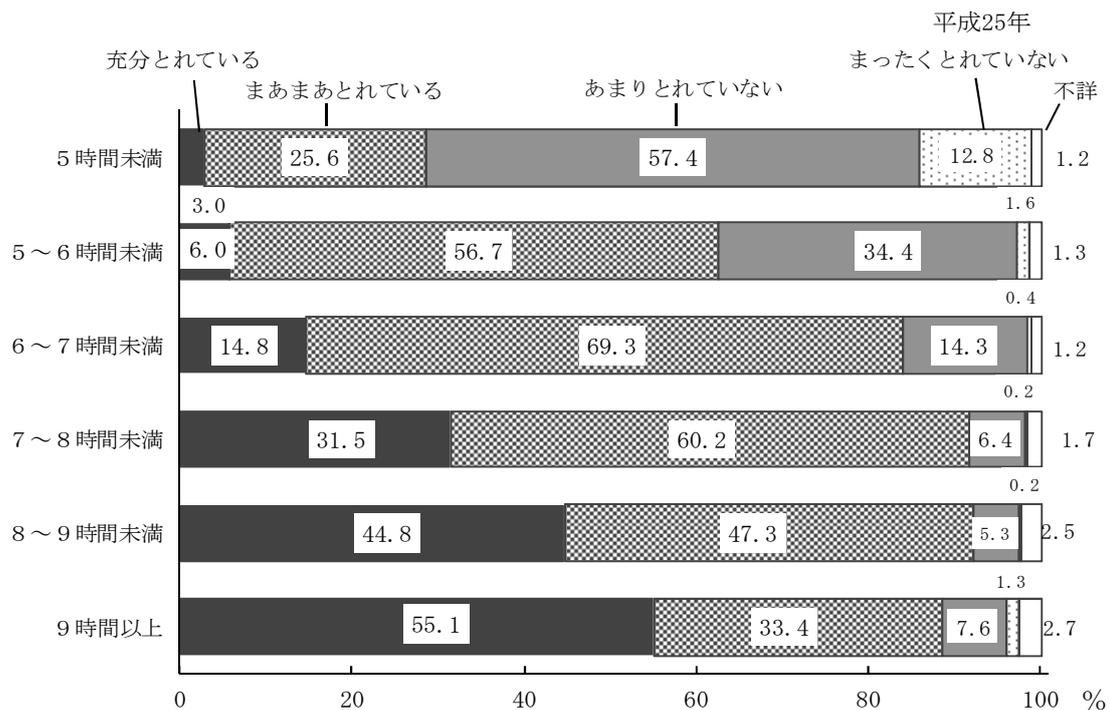
注：入院者は含まない。

図31 睡眠による休養充足度別構成割合（12歳以上）



注：入院者は含まない。

図32 平均睡眠時間別にみた休養充足度の割合（12歳以上）



注：入院者は含まない。

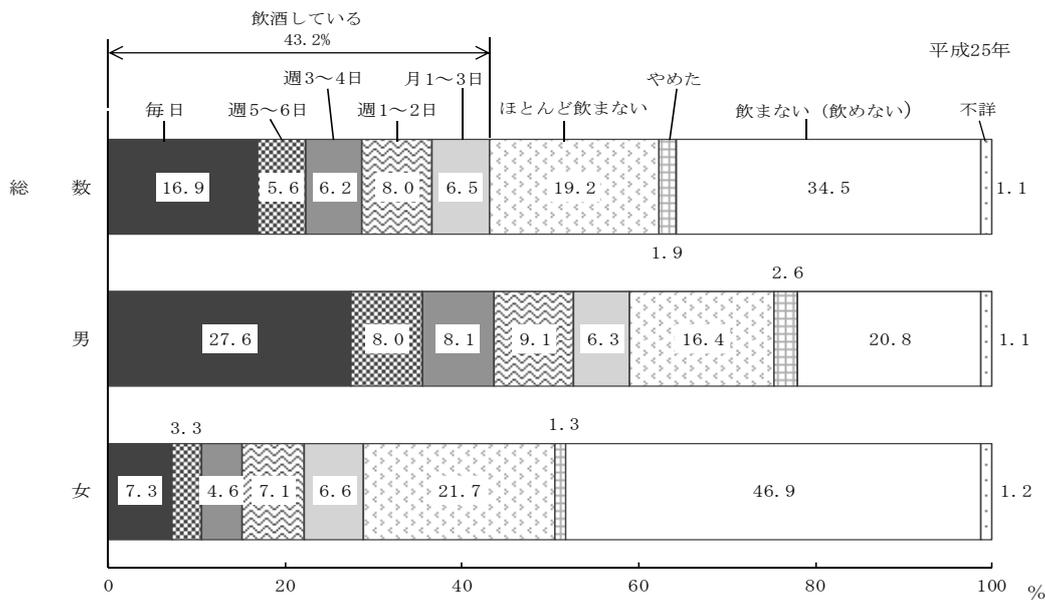
7 飲酒の状況

20歳以上の者（入院者は除く。）について、週の飲酒の状況を性別にみると、男は「毎日」が27.6%、女は「飲まない（飲めない）」が46.9%と最も多くなっている（図33）。

性・年齢階級別にみると、男は30代から70代まで「飲酒している（「毎日」から「月1～3日」）」の割合が多く、「20～29歳」、「80歳以上」は「飲酒していない（「ほとんど飲まない」から「飲まない（飲めない）」）」の割合が多くなっている。女は全ての年齢階級で「飲酒していない」の割合が多くなっている。

「飲酒している」を飲酒の頻度別にみると、男は「20～29歳」以外、女は20代から30代以外の年齢階級で「毎日」が最も多くなっている。（表17）

図33 性別にみた飲酒の頻度別構成割合（20歳以上）



注：入院者は含まない。

表17 性・年齢階級別にみた飲酒の状況別構成割合（20歳以上）

（単位：％）

平成25年

性 年齢階級	総数	飲酒 している	飲酒している					飲酒して いない
			毎日	週5～6日	週3～4日	週1～2日	月1～3日	
男	100.0	59.1	27.6	8.0	8.1	9.1	6.3	39.8
20～29歳	100.0	46.7	5.4	3.7	7.3	15.4	14.9	52.1
30～39	100.0	57.4	19.6	7.6	9.2	12.4	8.6	41.6
40～49	100.0	62.9	28.5	8.6	9.5	10.1	6.2	36.2
50～59	100.0	68.1	36.2	10.3	9.0	8.2	4.4	31.0
60～69	100.0	65.0	37.7	9.8	7.4	6.3	3.8	34.1
70～79	100.0	55.5	31.6	7.8	6.8	5.7	3.6	42.8
80歳以上	100.0	39.9	23.6	4.8	4.6	4.0	2.9	57.7
女	100.0	28.9	7.3	3.3	4.6	7.1	6.6	69.9
20～29歳	100.0	34.9	1.8	1.7	3.9	11.6	15.9	64.2
30～39	100.0	34.7	7.5	3.5	5.2	9.5	9.0	64.7
40～49	100.0	40.1	11.6	5.0	6.3	9.8	7.4	59.3
50～59	100.0	35.4	10.8	5.1	5.9	7.6	6.0	64.1
60～69	100.0	26.1	7.9	3.6	4.5	5.4	4.7	72.8
70～79	100.0	16.5	4.5	1.9	3.3	3.5	3.3	81.3
80歳以上	100.0	8.5	2.6	0.9	1.4	1.8	1.8	88.6

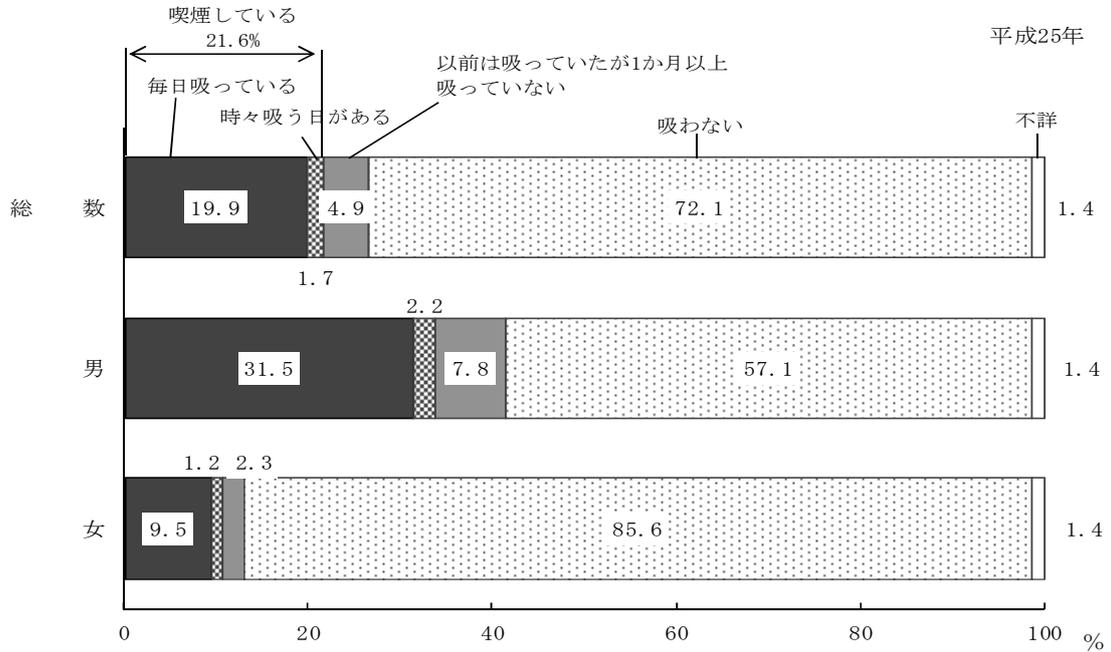
注：1）入院者は含まない。

2）「総数」には、飲酒の状況不詳を含む。

8 喫煙の状況

20歳以上の者（入院者は除く。）について、喫煙の状況を性別にみると、男女とも「吸わない」が最も多く、男で57.1%、女で85.6%となっている（図34）。

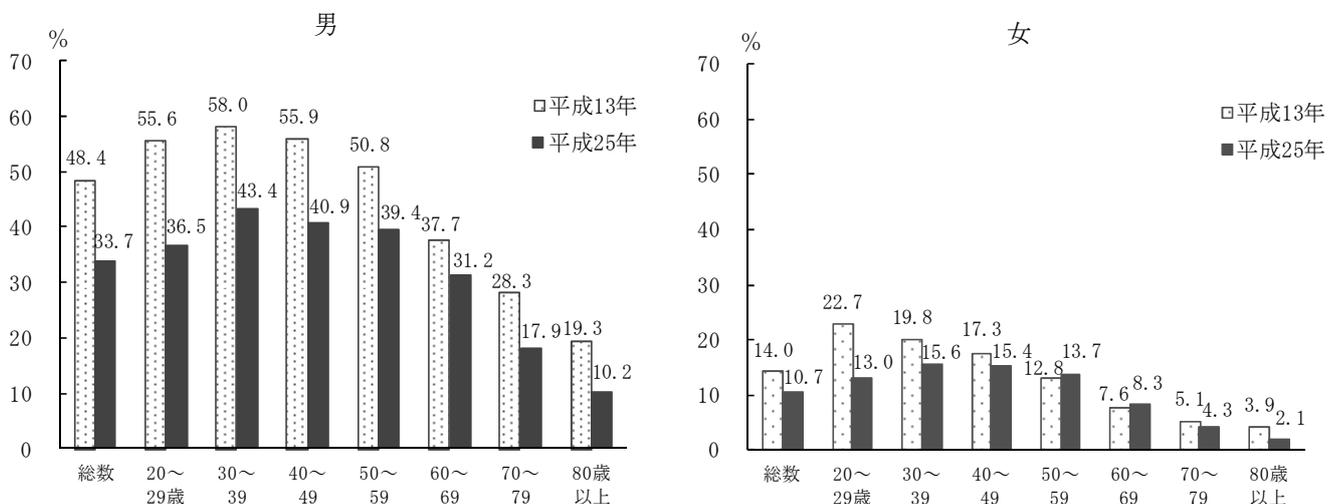
図34 性別にみた喫煙の状況の構成割合（20歳以上）



注：入院者は含まない。

喫煙している者（毎日吸っている＋時々吸う日がある）を性・年齢階級別に平成13年と比較すると、女の50代から60代以外の年齢階級で低下しており、男女とも「20～29歳」が最も低下している（図35）。

図35 性・年齢階級別にみた喫煙している者の年次比較（20歳以上）

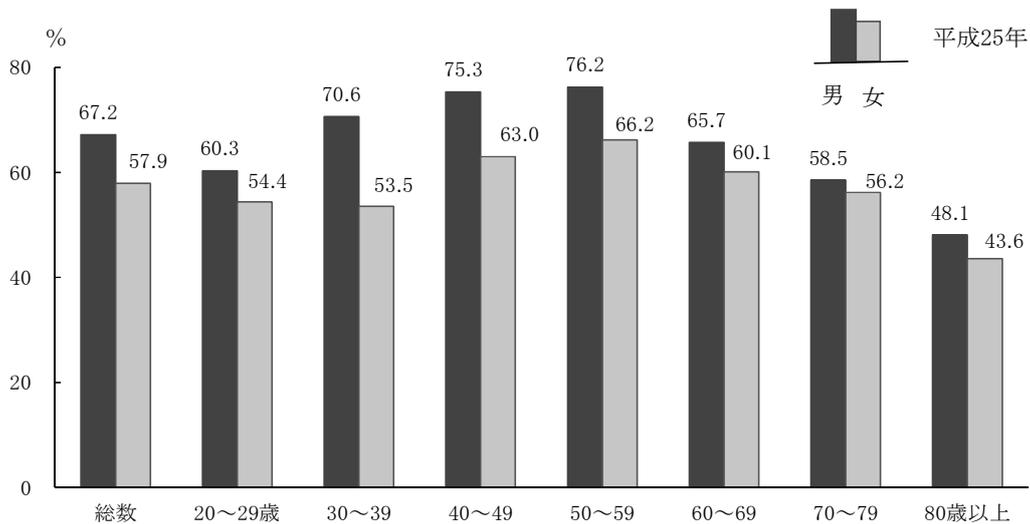


注：入院者は含まない。

9 健診（健康診断や健康診査）や人間ドックの受診状況

20歳以上の者（入院者は除く。）について、過去1年間の健診（健康診断や健康診査）や人間ドックの受診状況を性別にみると、男67.2%、女57.9%で男が高くなっており、年齢階級別にみると、男女ともに「50～59歳」が最も高く、男で76.2%、女で66.2%となっている（図36）。

図36 性・年齢階級別にみた健診や人間ドックを受けた者の割合（20歳以上）



注：入院者は含まない。

健診や人間ドックを受けなかった者について、受けなかった理由をみると、「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が32.5%と最も多く、次いで「時間がとれなかったから」、「めんどうだから」となっている。

年齢階級別にみると、「20～29歳」では「めんどうだから」、30代から50代は「時間がとれなかったから」、60代以上は「心配な時はいつでも医療機関を受診できるから」が最も多くなっている。（表18）

表18 年齢階級別にみた健診や人間ドックを受けなかった理由（複数回答）の割合（20歳以上）

（単位：%）

平成25年

年齢階級	総数	心配な時はいつでも医療機関を受診できるから	時間がとれなかったから	めんどうだから	費用がかかるから	毎年受ける必要性を感じないから	その時、医療機関に入通院していたから	健康状態に自信があり、必要性を感じないから	結果が不安なため、受けたくないから	検査等に不安があるから	知らなかったから	場所が遠いから	その他
総数	100.0	32.5	20.6	18.5	15.4	9.5	8.6	8.2	4.8	3.3	3.0	1.9	11.4
20～29歳	100.0	16.8	21.7	24.0	22.0	9.5	1.2	13.0	2.1	2.6	9.2	1.8	15.1
30～39	100.0	17.5	32.6	22.0	28.3	7.5	2.2	8.1	3.4	3.2	5.0	1.9	13.3
40～49	100.0	18.7	37.4	24.5	21.2	7.6	3.2	6.9	6.3	4.4	2.1	2.6	10.7
50～59	100.0	28.1	29.2	22.4	16.5	9.1	7.0	7.0	7.9	4.2	1.3	1.9	10.6
60～69	100.0	41.3	15.1	17.7	10.9	12.4	11.5	8.6	6.8	3.7	1.2	1.6	9.6
70～79	100.0	51.3	5.6	10.6	6.1	11.3	15.7	8.4	4.2	2.8	1.3	1.7	8.7
80歳以上（再掲）	100.0	52.4	2.4	8.4	2.5	7.9	19.6	5.3	1.7	1.7	1.4	2.1	12.9
65歳以上	100.0	49.8	6.1	11.2	6.0	10.7	16.2	7.6	3.9	2.7	1.3	1.7	10.2
75歳以上	100.0	52.5	3.0	8.8	3.4	8.8	18.6	6.0	2.5	2.1	1.4	2.0	11.1

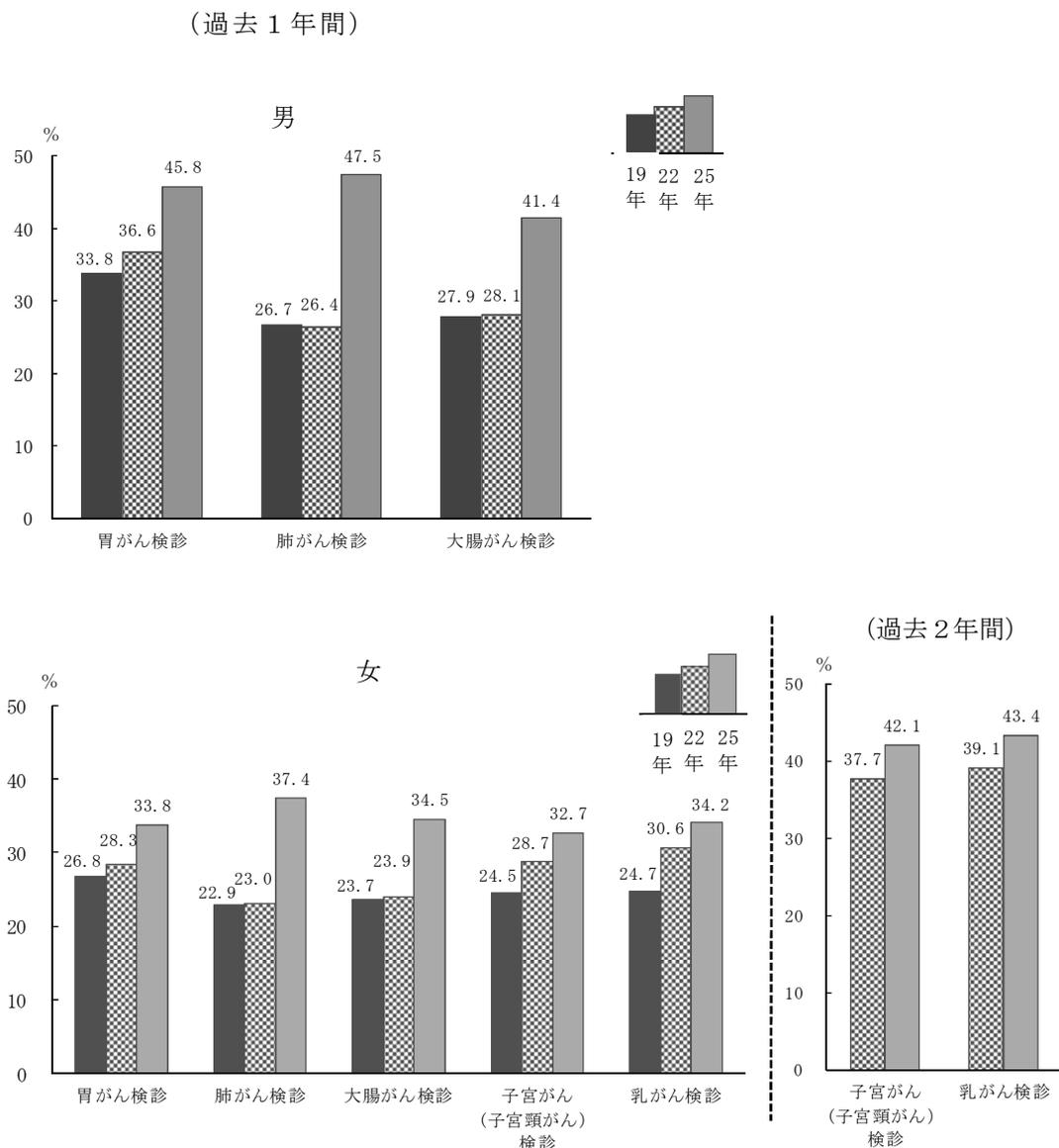
注：入院者は含まない。

10 がん検診の受診状況

40歳から69歳の者（子宮がん（子宮頸がん）検診は20歳から69歳。入院者は除く。）について、過去1年間にがん検診を受診した者をみると、男女とも「肺がん検診」が最も多く、男で47.5%、女で37.4%となっている。

過去2年間に子宮がん（子宮頸がん）、乳がん検診を受診した者をみると、子宮がん（子宮頸がん）検診は42.1%、乳がん検診は43.4%となっている。（図37）

図37 性別にみたがん検診を受診した40歳から69歳（子宮がん（子宮頸がん）検診は20歳から69歳）の者の割合



注：1） 入院者は含まない。

2） 平成22年までは「子宮がん検診」として調査しており、平成25年は「子宮がん（子宮頸がん）検診」として調査している。

3） 平成22年調査までは、がん検診の受診率については、上限を設けず40歳以上（子宮がん検診は20歳以上）を対象年齢として算出していたが、「がん対策推進基本計画」（平成24年6月8日閣議決定）において、がん検診の受診率の算定の対象年齢が40歳から69歳（子宮がん（子宮頸がん）は20歳から69歳）までになったことから、平成25年調査については、この対象年齢にあわせて算出するとともに、平成22年以前の調査についても、この対象年齢にあわせて算出し直している。